

2018年度事業報告書

1. 歌謡音楽の振興及び普及

講演会等での歌謡音楽の啓蒙・普及活動の実施（2019年3月末日現在）

- (1) 第4回目の開催となった歌い継ごう「遠藤実ソングフェスティバル」を柱に、多くの方々に遠藤実メロディーをより身近に感じていただき、歌ってもらうという目的を遂行できた。
- (2) BSを中心に、昭和を懐かしみ作詞・作曲家をとりあげる番組が多くなっている中で、遠藤実も幾度となく、作品・本人にスポットを当てる番組が制作された。その都度情報や資料提供など財団も協力を行った。また、再放送、再々放送もあり、今のところまだ、関心を向けていただいている状況であった。
- (3) 一昨年31年振りに編集発売した、譜面集「遠藤実のすべて ベスト200」を多くの方に知っていただこうと頒布、販売促進に努めた。
- (4) その他、歌謡音楽の啓蒙・普及に努めた。

2. 遠藤実記念館『実唱館』の管理・運営

- (1) 記念館、休憩ルームにてカラオケの提供
楽しく・歌える記念館の宣伝を兼ねた、毎月2回のカラオケイベントの開催や、口コミ効果もあり、歌える記念館として定着してきた。常連客を中心に、連日賑わっている。
- (2) 昨年に引き続き、カラオケDAMの採点機能で歌った得点上位者が「遠藤実ソングフェスティバル」の準決勝へ参加できる、記念館特別枠を設けた。それにより、応募を目的に練習に来るお客さんが増え、カラオケ使用率が上がった。
- (3) BS放送による遠藤実元理事長を特集する番組が放送となり、その中で記念館の展示物を映しながら、記念館の存在も知ってもらうことができた。

- (4) 昨年は、没後10年の年だったので、改めて足跡を振り返ってもらう機会を設けた。新潟市の新潟日報メディアシップエントランスに於いて、「遠藤実パネル展」を開催した。同時に、記念館及び「ソングフェスティバル」のパンフレットも配布し、宣伝にも活用した。
- (5) 遠藤実元理事長の人柄や作曲生活にまつわる関係資料の展示及び著作物の販売
平成30年4月1日～平成31年3月末日までの入館者数 4,588名
カラオケのみの利用者 4,321名

3. 歌謡音楽を通じての国際交流

- (1) 日中互惠信頼構築シンポジウム
昨年度の中国北京市でのシンポジウムに引続き、日中両国の音楽著作権に関する諸問題について意見や情報を交換し、両国の今後の音楽文化発展に資するべく討論を、新潟市にて開催した。
- (2) 「遠藤実ソングフェスティバル」決勝大会の中で国際交流部門を設けた。
在新潟中国総領事館、新潟華僑華人総会、中国留学生の有志の皆さんに「北国の春」「ジャスミンの花」「すきま風」を日本語・中国語で歌ってもらい、記念品を贈呈した。孫大剛総領事より、「遠藤実先生の作品には、人々に親しまれ愛され、世代を超えて歌い継がれてきた名曲が数多くあります。ふるさとを懐かしむ歌、『北国の春』は中国と日本の何世代にもわたって愛され続け、また両国の人々の心を近づける歌であり、中日両国の音楽文化考慮の上で代表的な曲であると思います」とのありがたいご挨拶をいただいた。
- (3) 『Studies on East Asian Evergreen pops in the 20th Century』の頒布について
当財団ホームページ上で告知し希望者を募ったが、今年度の申し込みはなかった。

4. 賛助会員の申し込み（2019年3月末日現在）

個人 : 53人

法人 : 1社